Newsletter
奈良女子大学附属学校園
No.4　2006/11/17

「食教育フォーラム」を開催

食教育研究推進本部

本年度より、本学の生活環境学部に食教育研究推進本部が設立され、その活動の一環として、平成18年８月25日に「子どもの明日を拓く食教育」奈良女子大学食育推進フォーラムが開催されました。

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育健康教育企画室長の宮内健二氏をはじめ、日本栄養士会会長で、神奈川県立保健福祉大学栄養学科教授の中村丁次氏、研究協力校である奈良市立都跡小学校学校栄養職員の山中敦代氏をお招きし、ご講演いただきました。

■講演Ⅰ■
「栄養教諭を中心にした学校における食育の推進について」　宮内健二 氏
「食育における管理栄養士・栄養士の役割」　中村丁次 氏
「“疲れやすい”子どもたちーその医学的背景を考えるー」　久保田優（生活環境学部教授）
■公開授業■
「家族で食べる朝ごはん」
附属小学校５年星組児童
太田原みどり（附小栄養教諭）
堀本三和子（附小教諭）
■講演Ⅱ■
「生きる力を育む食育をめざして」　山中敦代 氏
「園児・児童の食事の実態」　伊達ちぐさ（生活環境学部教授）

当初に予定していた600人を遙かに超えた約1000人もの方々が参会し、講堂に入りきれず、第二会場を設けてビデオ中継をするほどの盛会となりました。

参会者の中には、他府県から遠方より足を運んで来られた方もおり、その職種も管理職から教諭、栄養職員、学生、保護者、一般の方と様々であり、報道関係者の取材もありました。食育への関心が高いことを改めて実感する機会となりました。

附属小学校では、食教育に関する年間指導計画を立て、それに基づいた実践を推進しています。今回のフォーラムでは、５年生星組「けいこ」（家庭科）「家族で食べる朝ごはん」の公開授業を行いました。本授業では、子どもが家族の一員として日常の家庭生活に目を向け、自らの課題の解決を図ったり、自分の生活を見直し、改善し、向上を目指したりすることをねらいとしました。

当日は、堀本教諭とＴ・Ｔの形で進めました。子どもたちは、友だちの作った朝食の発表を聞き、朝食を作った自分の経験と結びつけながら、おたずねや意見を出し合い、楽しい学び合いの場面を参会の皆さんに見ていただくことができたと思います。

＜フォーラム参加者の感想＞
・子どもたちが素直に学ぶ姿がみられたことはとてもよかったです。
・子どもたちの発言がお互いに学び合うための発言になっていました。緊張の中、楽しい授業でした。
・子どもたちがとてもきめ細かく考えていて、びっくりしました。
・子どもの発言・発表を中心とした子ども主体の授業のやり方がすばらしかった。

附属小学校では、食教育においても「奈良の学習法」に基づいた、子どもたちが自ら学び合える学習にしていきたいと考えています。

様々な「食」の視点からの学習を重ねることで、子どもたちが生涯を通じて、健康に過ごせるような自己管理能力を身につけられることを目標に、これからも子どもたちと一緒に学んでいきたいと思っています。

（文責：栄養教諭　太田原みどり）

「研究開発学校」活動報告

研究開発統括委員会

この度、本学附属学校園は３校園合同で、以下の研究課題について文部科学省の研究開発学校の指定を受けました。

「幼・小・中等15年間にわたり、事物認識とその表現形成の徹底化を通して、独創的で『ねばり強い』思考能力を育成する教育課程の開発」

本研究開発課題は「子どもたちの独創的でねばり強い思考力を育む」というところに中心がありますが、この過程において「異年齢間の活動の交流」がひとつの研究課題になっています。子どもたちは子ども同士の関わりあいの中で、様々なことを学んでいきます。また、その活動は同年齢にとどまらず異年齢同士の交流の中から、より広がりや深まりが起こるであろうことが予想されます。本研究開発では、３校園合同であるという本校園の特徴を生かした学びの交流活動としての異年齢活動を企画し、子どもたちの学びの促進がどのように図られるかという点の研究を行うことを試みました。この取り組みの中から、７月13日に附属幼稚園・附属小学校で行った「かがくのひろば」について報告します。

「かがくのひろば」は、附属中等教育学校のサイエンス研究会の生徒たちが園児や児童に科学の不思議さや面白さを伝えようと企画された交流活動です。

午前中は附属幼稚園の子どもたちと一緒に「スーパーボールを作って遊ぼう」。園児たちは縁日ではおなじみの「スーパーボール」、自分たちで作れるの？と、不思議そうな顔をしています。サイエンス研究会のお兄さんお姉さんが遊戯室の舞台で説明しながらスーパーボールを作ります。「このバケツには魔法の水が入っています。ここに魔法の液を入れて‥‥ぎゅっぎゅっとにぎると～」出てきたのは縁日で見るのとはちょっと違う白い固まり。それを床にぶつけてみると‥‥ぽーんとはずみます。スーパーボールのできあがりです。子どもたちの顔がぱっと明るくなります。「好きな色をつければきれいなスーパーボールができますよ」説明が終わると園児たちはまっしぐらに「スーパーボールを作るコーナー」にやってきます。魔法の水に魔法の液をいれて、ぎゅっぎゅっ。自分だけのオリジナルスーパーボールがあちこちでできあがります。おもしろいな。ふしぎだな。園児たちの素直な驚きや目の輝きに触れ、サイエンス研究会の生徒たちの表情も自然に優しく穏やかになっていきました。

スーパーボールの説明

スーパーボールを作ろう！

午後からは附属小学校の６年生に、サイエンス研究会「化学班」は「線香花火のしくみ」の実験、「物理班」は、自分たちの研究しているロボットやコンピュータゲームや車載カメラ搭載ラジコンのプレゼンテーションを行いました。化学班は午前中の幼稚園で活躍したメンバーです。今度は６年生だということで、花火の仕組みを科学的に丁寧に説明していきます。薬品の種類、薬品の性質、薬品を混ぜる順番など、６年生の生徒も熱心に学習します。実際に花火を作り、火をつけて試したときにうまく火花があがると歓声が起こります。普段、何気なく楽しんでいる花火、こんな仕組みだったんだ。実際に作ってみての発見もいろいろとあった様子です。

花火の仕組みの説明

花火はきれいかな？

物理班のプレゼンにはそのレベルの高さにただただため息。お兄さんたちのすごさにあこがれを持った児童も少なからずいたようでした。車載カメラの映像を見た６年生の感想には「この仕組みは地震などの災害時、倒壊家屋に閉じこめられている人々の救助に役に立つのでは」と、車載カメララジコンという「もの」から「災害・救出」という「こと」へと発想を広げてくれているものも見られ、子どもたちの認識発達の一面も見られることのできた取り組みでした。

「かがくのひろば」の他にも９月に幼稚園の子どもと小学校の生徒との交流を２度行いました。年長クラスの園児が小学校の授業を体験したり、給食を食べたりしました。園児はいつもとちがう環境に少しとまどい気味でしたが、小学校の子どもたちのあたたかい配慮に、徐々にうち解けていきました。

12月には附属中等の２年生と附属小の５年生が合同で授業を受ける体験をします。子どもたちがどのような育ちの側面を見せてくれるかとても楽しみです。

附属幼稚園 TOPICS 「はしるのだいすき！」

10月７日（土）に、毎年恒例の運動会が開催されました。当日は朝から雨がぱらつく天候でしたが、子どもたちの思いが雨雲を吹き飛ばし、時々おひさまも顔を出して何とか最後まで実施することができました。

当園の運動会は、「自分から主体的に取り組む運動会」を目指しており、日常の保育の中でみんなで楽しんだ活動をプログラムに取り入れ、体を動かす楽しさが十分に味わえるようにしています。

例えば、“走ること”に関して言えば、いわゆる「かけっこ」という競争の形ではなく、日頃楽しんでいる遊びの中から思い切り走れる遊びを年齢に合わせて選んでいます。３歳児では「ライオンいないか」というわらべ歌遊びでライオンから逃げることで思い切り走っているし、４歳児では「しっぽとり」というゲームの中で、しっぽを取ったり取られたりしながら力いっぱい走っています。５歳児の「バトンリレー」では、４色のチームに分かれてリレーして走ることで友達と協力して走る楽しさを経験しています。いずれも個人の能力の差によって結果が出るのではなく、みんなと一緒に走ることが楽しいと感じられることを目的としています。そのため、子どもたちは個人の勝負を気にすることなく、のびのびと走ることを楽しんでいます。

また、子どもが自分で出たい競技を選んで出場できるように、「自由選択種目」をいくつか設けています。まり入れ、ダンス、運動遊びなどの自由選択種目があるのは、子どもが自分の意思で参加し、自信をもって力を発揮できるようにとの配慮からです。当日はどの種目にも自分から意欲的に参加する子どもが多くいました。終了後、「先生、まだ疲れてないよ。」「明日もしよう。」という子どもたちの顔は生き生きと輝いていました。

附属小学校 TOPICS「不審者侵入対応の防犯訓練」

学校の安全確保の困難さは、いつ、どんな災難に遭遇するか予測ができない点にあります。しかし、備えがあれば、憂いを最小限に食い止めることは、ある程度可能でしょう。備えの中で、特に大切なことは、「意識」の問題だと言われています。そのために欠かせないのが、危機や災害を想定した「訓練」活動です。

子どもを犯罪から守るためのマニュアル作りはできても、その訓練は容易ではありません。不用意に子どもたちを巻き込んで実施すると、かえって、逆効果にならないとも限りません。場面設定に応じて対処が異なるだけでなく、子どもたちを集めて逃げればよいというわけにもいきません。

今回は、附属幼稚園との合同の形で、防犯訓練を実施しました。幼稚園には「不審者役」がいないという理由からでしたが、これで、幼小連携の実を挙げることができました。

訓練は、子どもたちの下校後、４時半ごろから行いました。近隣住民の方々に、「訓練」であることをアナウンスしてから開始しました。

事前に打ち合わせた通り、「さすまた」を使って、不審者を子どもたちに近づけないことを中心に訓練しました。子どもをかばって教員が１名負傷したので、担架で運ぶ訓練も入っていました。

一応、シナリオ通りに、無事（？）訓練は終了しましたが、事後の「反省会」で、今後の課題が多く出されました。今後、出された課題を踏まえ、場面設定を変えて、訓練を継続していく予定です。

さすまたで不審者に立ち向かう

担架で運ばれる負傷した教員

附属中等教育学校 TOPICS「グローバル・クラスルーム開催」

７月８日（土）～７月17日（日）、附属中等教育学校がホスト校となり、グローバル・クラスルームが開催されました。グローバル・クラスルームとは、1997年以来、本校が参加している高校生による国際フォーラムです。毎年、いずれかのパートナー校で、フォーラムが開かれることになっており、各校から代表生徒が参加し地球規模の社会問題について議論を行い、提言をまとめます。2000年にも第４回大会が本校で開かれました。今年は、２巡目となり、最初から数えると第10回目の大会ということになります。

スウェーデン、スコットランド、ドイツ、チェコ、南アフリカから、70名を越す参加者が本校に集いました。今回の大テーマは「平和」。今日の世界情勢を鑑みるに、まさに時宜にかなったテーマだったのではないでしょうか。開会式は、テーマにふさわしい場所として広島で行いました。広島平和記念資料館を見学後、「平和」をテーマにした劇を各校が演じました。原爆被災者の松原美代子さんの英語による体験談には、最後にスタンディングオベーションが起こりました。本校に帰ってきてからは、「科学」「子どもの人権」「メディア」の各サブテーマについてプレゼンテーションをしたり、ディスカッションをしたりして意見を交換し理解を深めることができました。今回は本校生徒のご家庭にホストを引き受けていただきました。参加者も日本の家庭生活の一端を経験し、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。開催にあたり協力いただいた方には、御礼もうしあげます。

奈良女子大学附属学校園　Newsletter 04
2006年11月発行
奈良女子大学附属学校部
〒630-8506　奈良市北魚屋東町
TEL. 0742-20-3938
Web http://www.nara-wu.ac.jp/fuzoku/